

令和2年度 山田小学校便り

6月25日発行 No.2
文責：内田 正紀

マロン号



～「一生懸命が、カッコいい」を合い言葉に～

『学校再開から1ヶ月』

6月1日からの本格的な学校再開からまもなく1ヶ月が過ぎます。子ども達のご家庭での様子等はいかがでしょうか。学校では、3密を避ける取組や手洗い、うがい、消毒の実施を継続しています。学校に着いてからは、マスクの着用も続けていますが、この蒸し暑い日々の中で、マスクをずっと着けておくというのは、子ども達にとっては、なかなか大変なことです。そこで、暑さ対策の一つとして、フェイスシールドを購入しました。慣れるまではぎこちないかもしれませんが、音楽や外国語の時間には、これを着けることで、歌うことができたり、発音がしやすくなったりすると思います。「withコロナ」（コロナと共に）という言葉も聞かれますが、学校が子どもたちにとって安心・安全な場所であるよう、油断せずに、教育活動をこれからも進めていきます。また、新たな取組として、教科書類を学校に置いて帰る（学校に置いておく）『置き勉』を実施しています。最近の教科書類は、大きさも重さも有り、成長期の子ども達にランドセル全体の重さが負担になっていないかということが、この取組のきっかけになりました。本校でも、子ども達の負担軽減を第一に考え取組を始めました。宿題などに応じて持って帰る教科書も変わると思いますので、どうぞお知りおき下さい。



6月は、「こころのきずなを深める月間」です。

山田小でもアンケートやクラスの人権標語を作るなど、全校で、人権について考えたり、いじめの早期発見・解決に向けた取組を行っています。ところで、梅雨の時期に咲く花といえば「紫陽花」ですね。紫陽花の花言葉は「家族の結びつき・強い愛情」だそうです。紫陽花の花は、その一つ一つがしおれても周りが支えていて、バラバラになることなく、最後まで一つの固まりとして咲いていると聞いたことがあります。そんなところから、この花言葉があるのかもしれない。いじめはなくなるといふ話や意見を聞くことがあります。人間は、自己の欲を満たすために人を傷つけることをいとわないとか、恨みや妬みをなくするのが難しいとかいうのがその理由だそうです。しかし、決してそうではないと私は思います。多くの場合、いじめめる人は、そのことで相手を傷つけてしまっているということが理解できていないものです。だからこそ、学級という集団の中で「いじめられた」とか「いやなことをされた」と感じたときに、「いやだから言わないでほしいと言うこと」「誰かに相談すること」「まわりでそんなことが起こっていることに気付いたら声を上げること」ができるようになってほしいと思っています。最近のアンケートの結果からは、【だれかに相談したことで解決できた。】というのが見られています。そのためにも、子ども同士のかかわり合いの力を高めていくことも必要であると考えます。学級でのかかわり合い、地域でのかかわり合い、縦割り班でのかかわり合い、登校班でのかかわり合い等たくさんのかかわり合いの場面があります。そして、何よりも大切なことは、家族のかかわり合いであり、学校と家庭の連携です。いじめは絶対に起きないとは言えません。いつでも、どこでも起こりうるという意識を持ち続けたいと思います。アンテナを高くし、しっかりと受けとめ、みんなで考えることや間違っていることを間違っていると判断できる子ども・言える子ども、つまりは、今年度の目標でもある『行動化できる子ども』を育てることに繋げていきたいと思っています。